

天声人語

天安門事件が消し去られようとしている。事実にすら近づけず、追悼も許されないのを憤る詩である。「すべての道が封鎖されている。すべての涙が取り締まられている。すべての花が尾行されている。すべての記憶が洗い流されている」。中国の人権活動家、劉曉波さんが書いた（劉燕子訳）▼1989年、民主化を求める運動が戦車に押しつぶされ、多くの命が奪われた事件。それが「忘れられ荒れはてた墳墓」になつている。非暴力の立場で運動に加わった劉さんは許せなかつたのだろう▼外国に活動の場を移す人が多いなか、何度も弾圧されても中国からの発信にこだわつた。2008年には、共産党の一党支配の放棄などをネット上で訴えた「08憲章」の起草の中心となり、国家政権転覆扇動罪に問われた。ノーベル平和賞を受けたのは獄中においてである▼08憲章には真っすぐで当たり前の言葉ばかりがある。公民が国家の眞の主人となるべきである。憲法を眞の意味での人権の保証書とする。言葉の力を当局はおそれたか▼政治改革を強く求めつつ、「私には敵がない」と訴え続けた。「最大の善意をもつて政権の敵意に向き合い、愛によつて憎しみを消し去ることができるように望んでいる」。裁判の判決を前に、そう書いた▼61歳の早すぎる死である。外国での治療もかなわなかつた。「自由な中国が訪れるに対して楽観的な期待に満ちている」。劉さんの信じた未来が実現するのは、いつになるだろうか。

2017・7・15